

Athlete & Performer Book 2024

To the Future, Excelsior !



世界中のアスリートやパフォーマーたちは、
それぞれの舞台で最高のパフォーマンスを発揮するために
日々たゆまぬ努力を重ねています。

ライフウェーブの先進的なライフテクノロジーは、
独自技術に基づく革新的なウエルネスサポート製品で、
身体本来がもつ能力を最大限生かし、
健康維持をサポートします。

私たちは常に革新を追求し、
世界中の人々の健康とウエルネスの向上に貢献するとともに、
アスリートやパフォーマーたちの夢の実現を支えています。

共に未来へ、さらなる高みを目指して。

New Partner	NEW	コンサドーレ札幌	P6	水中スポーツ 水上競技		歳永 ゆきね	P26	
	NEW	山口 善治	P7			曾根崎 史	P27	
	NEW	平原 誠之	P8			外館 祥	P28	
	NEW	安田 京弘	P9			村井 海人	P29	
	NEW	小寺 弘士	P10		ウィンタースポーツ	川村 清司	P30	
	NEW	FLY DIGGERZ	P11			宮本 慎矢	P31	
球技		有本 尚紀	P12	格闘技		本田 陽菜	P32	
		菊地 りお	P13			光井 恭平	P33	
		柳本 あまね	P14			安井 章博	P34	
		石橋 貴俊	P15			末木 利幸	P35	
		琉球コラソン	P16			畑山 隆則	P36	
		星野 誠	P17			吉田 凜汰朗	P37	
芸術文化		益子 倭	P18	その他		山田 よう子	P38	
		益子 夢乃	P19			永田 克彦	P39	
		苅部 真子	P20			中上 貴晶	P40	
		大川 良太郎	P21			石井 寛子	P41	
	陸上競技		秋山 正輝		P22		田口 勝彦	P42
			坂本 渉		P23		深井 諭	P43
		上部 美帆	P24		古屋 博史	P44		
		藤原 孝史朗	P25		大庭 大業	P45		
					Tribute	古賀 稔彦	P46-47	

敬称略

一人の男の情熱とビジョンから始まったストーリー

LIVE LONG. LIVE WELL. LIVE YOUNGER.

2004年3月、私はアメリカのオリンピック水泳コーチを6回努め、当社のEnergy Enhancer(エナハンサ)パッチをスタンフォード大学の水泳選手に紹介したリチャード・クイック氏に出会いました。彼がコーチする水泳チームが当社のパッチを貼って泳ぎ、全米放送のテレビで放映されたことが、ライフウェーブが注目を浴びるきっかけとなりました。

2004年の創業以来、ライフウェーブの独自技術をベースとする、先進的な身に着けられるライフテクノロジーはこれまで世界100ヶ国以上で販売され、世界中の多くの人々のウェルネスをサポートし続けています。

ライフウェーブは革新の精神を常に持ち続け、ライフテクノロジー企業として、人間の可能性を最大限引き出すために開発された健康とウェルネスに対するソリューションを提供し、世界中の人々の「Live Long, Live Well, Live Younger(長く、健康で、若々しく生きる)」を実現していくことに全力を注いでいます。



ライフウェーブ創業者兼 CEO
デイビッド・シュミット

A handwritten signature in black ink, appearing to read "D. Schmitt".

ライフウェーブが世界の注目を浴びた決定的な瞬間

Richard Quick

リチャード・クイック 水泳コーチ

ライフウェーブにとって決定的な瞬間が訪れたのは2004年、生体医工学分野のカール・マレット博士がEnergy Enhancer(エナハンサ)を当時スタンフォード大学の女子水泳チームのコーチを務めていた、リチャード・クイック氏に紹介したときでした。その後、クイック氏が指導するスタンフォード大学のチームはこれまでのトレーニングの成果を発揮し、8人のメンバーのうち6人が自己最高記録を更新したのです。そして、オリンピックの水泳代表選考会でこのパッチを使用していたことから、ライフウェーブは全米のメディアから注目を浴びることになりました。現在、多くのプロアスリートがライフウェーブのパッチを愛用し、支持しています。ライフウェーブはクイック氏の偉大な業績に敬意を表してリチャード・クイック優秀賞を創設し、年1回公私にわたって同氏が貫いてきた信念を体現したメンバーを表彰しています。

クイック氏は数多くの偉業を成し遂げました。

- NCAA ナショナル・チャンピオンシップ 13 回出場記録
- テキサス大学でナショナル・チャンピオンシップ 5 回連続出場
- スタンフォード大学で NCAA 全国選手権 8 回優勝
- NCAA 最優秀コーチ賞 5 回受賞
- オリンピック 6 大会連続で米国代表チームのコーチに就任



リチャード・クイック優秀賞トロフィー



HOKKAIDO
Consadole
SAPPORO

©2024 CONSADOLE

Consadole Sapporo

北海道コンサドーレ札幌

サッカー

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に所属するサッカークラブチーム。北東芝罘川町サッカー部として1935年に創部。1996年に札幌へ移転し、チーム名をコンサドーレ札幌と改称した。Jリーグには1998年に加盟。2016年からチーム名を北海道コンサドーレ札幌に変更し、ホームタウンエリアも拡大された。チーム名の「コンサドーレ」は「どさんこ」の逆さ読み、ラテン語の響きを持つ「オーレ」を付けたもの。クラブエンブレムは北海道に生息する日本最大のフクロウ「シマフクロウ」を象徴的に図案化。頂点に羽ばたく翼を持つシマフクロウの盾型の中に、11個の星(結束したイレブン)、勝利を見据える眼光(闘志)、ブリザードを表す白ストライプ(攻撃性)を配し、それらが、ホームタウンを意味するリボンの円弧に根ざすデザインになっている。

ライフウェアは、北海道コンサドーレ札幌の2024シーズンサプライパートナーです。

【お気に入り製品】
X39、X49、エナハンサ、YエイジC、アイスウェア

【Profile】

- 沿革
- 【1935年】 東芝堀川町サッカー部として川崎市に創部
 - 【1978年】 日本サッカーリーグ2部昇格
 - 【1980年】 (株)東芝サッカー部と改称
 - 【1989年】 日本サッカーリーグ1部昇格
 - 【1992年】 第1回JFL1部参加
 - 【1996年】 札幌へ移転、株式会社設立。チーム名をコンサドーレ札幌と改称、Jリーグ準会員となる
 - 【1998年】 Jリーグ正会員となる。Jリーグ昇格
 - 【1999年】 Jリーグディビジョン2降格
 - 【2001年】 Jリーグディビジョン1昇格
 - 【2003年】 Jリーグディビジョン2降格
 - 【2008年】 Jリーグディビジョン1昇格
 - 【2009年】 Jリーグディビジョン2降格
 - 【2012年】 Jリーグディビジョン1昇格
 - 【2013年】 Jリーグディビジョン2降格

※Jリーグ公式サイトプロフィール情報より引用



Yoshiharu Yamaguchi

山口 善治

バスケットボール

これからもバスケットや陸上の試合に
挑み続けていきます



【お気に入り製品】
X39、X49、YエイジC

【Profile】

1936年生まれ。大阪のシニアバスケットボールチーム「シニアギャロップス」で活躍する現役最高齢を更新し続けるバスケットボール現役選手。





Masayuki Hirahara

平原 誠之 **作曲家/ピアニスト**

クラシック音楽を基礎としたピアノの演奏・作曲家。

日本・エルサルバドル音楽親善大使。一般社団法人日本作編曲家協会会員。情熱的な演奏、弱音、間合いに定評があり、オーケストラを想起させる豊かな表現力を持つ。既成概念にとらわれない演奏・作曲が高い評価を受け、全国各地で公演を行う。

【お気に入り製品】
X39、X49、エナハンサ、YエイジC、YエイジG

【Profile】
【1999年】
阪神・淡路大震災復興記念クラシックフェスティバル音楽コンクール作曲部門に参加し、財団法人兵庫県芸術文化協会賞並びに金賞を受賞。
【2010年】
・英国エディンバラにて行われた、日本総領事館、ポーランド総領事館、エディンバラ大学の三者共催、「ショパン生誕200周年記念」に行われたソロ・コンサートに日本代表として招聘される。
・エディンバラ日本国総領事より「在外公館長表彰」を授与される。
【2012年】
・カリフォルニア州アーバインヤマハ・マスターコース作曲クラスに特別教授として招聘される。
・式年選宮記念「せんぐう館」奉祝記念行事にて伊勢神宮開闢以来初のピアノ演奏を行い、伊勢神宮鷹司大宮司より表彰状を授与される。
【2014年】
日本・エルサルバドル音楽親善大使に任命される。
【2024年】
前島音楽親善大使に任命される。
(現在開発中の前島の別区画でのプロジェクト)

Kyohiro Yasuda

安田 京弘 **パラサーフィン**

もう一度、波にのる！

約10年前、脳や脊髄の運動神経が徐々に壊れることで筋力が衰えていく病気SBMA（球脊髄性筋萎縮症）を発症しました。大好きだったサーフィンも距離を置いてしまう程あきらめていた時に、パラサーフィンと出会いました。僕よりももっと重い障害を抱えた方々が、思い思いのスタイルでサーフィンを心から楽しむ光景にとっても感動すると同時に、「自分は何をやっているんだ!」と思い返し、パラサーファーになる決断をしました。今ではパラサーフィンのイベントや大会に参加することで、この素晴らしいスポーツをもっと多くの方に知ってもらいたいと思っています。そして皆さまの笑顔が続くようにお手伝いを出来たらと考えています！



【お気に入り製品】
X39、X49、エナハンサ、YエイジC、アイスウェーブ



【Profile】
【2023年】
・日本初のパラサーフィン世界大会2023 JAPAN OPENでデビュー & 2位入賞
・全日本パラサーフィン選手権大会(2位)
【2024年】
・2024 JAPAN OPEN(3位)
・全日本パラサーフィン選手権大会(2位)

Hiroshi Kotera

小寺 弘士 **アームレスリング**



【お気に入り製品】
X39、X49、Yエイジ C、Yエイジ イーオン、サイレントナイト

【Profile】
和歌山県出身、1977年生まれ。
アームレスリング、日本人初のプロトーナメントの
世界チャンピオン、全日本選手権7階級制覇。
【2001年】全日本60kg(優勝)
【2002年】全日本65kg(優勝)
【2003年】全日本55kg(優勝)、世界大会55kg(優勝)
【2004年】全日本70kg(優勝)
【2006年】世界大会60kg(2位)
【2008年】プロ世界大会63kg(2位)(ズロティーツール)
【2011年】世界大会60kg(3位)
全日本大会55kg~80kg、6階級制覇
【2019年】ズロティプロアームレスリング世界大会
日本人男子初(優勝)
【2022年】全日本63kg(優勝)



FLY DIGGERZ

フライディガーズ **ダブルダッチ**

KASUYA、TAKAO、KENGO、AYUKA、
TO-MA、K-SK(ケースケ)

【お気に入り製品】
X39、X49、エナハンサ、Yエイジ C、
Yエイジ G、Yエイジ イーオン、
サイレントナイト、アラビダ

【Profile】
【2021年】
・DOUBLE DUTCH CONTEST JAPAN 2021(優勝)
・DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2021(優勝)
【2022年】
・DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2022(優勝)

■メディア出演
・Apple AirPods Pro "Jump"
・Allbirds『地球に優しく、原宿から。』
・フジテレビ
【ノンストップ!】【めざましテレビ】【バイキング MORE】
・日本テレビ
【1億人の大質問 笑ってコラえて】【笑神様は突然に...】
・TBSテレビ
【テッペン! 『ハババジャニ WEST』】
・TOKYO MX
【超 RIZIN2】
・明治「BOOST BITES」ゲームイメージアーティスト
・SONY HDC Series Sample movie

■パフォーマンス
・2021年 DANCE@LIVE-SKY STAGE- GUEST 出演
・2021-2022年 FLIC FLAC X-MAS-SHOW (Germany) 出演
・SUMMER SONIC 2022 出演
・2022-2023年 Offenburger Weihnachtscircus
(Germany) 出演



Naoki Arimoto

有本 尚紀 **テニス**

限界を超えて、テニスで戦い続ける！

テニスは凄くタフな競技で、技術的およびメンタル的にマスターすることの達成感が魅力です。怪我を避けつつケアや食事に気を付け、練習と試合を重ねています。210キロのサーブ速度を実現し、年齢を重ねても限界を超えて挑戦し続けたいと思っています。

【お気に入り製品】 Y エイジ C、Y エイジ G、Y エイジ イーオン

【Profile】

自己最高ランキング：日本9位
2022年10月時点：ITF マスターツアーランキング
世界ランキング シングルス 2位 / ダブルス 1位
20～30歳代では国内・国外のツアーで約50大会で優勝。日本リーグではシングルス1で60勝以上勝利
S級エリートライセンス取得
元 JOC ナショナルコーチ / 公益社団法人日本プロテニス協会理事 / 覚王山テニスクラブスクール代表

【2019年】

- ・Niagara Therapy Australia Tennis Championships シングルス (優勝)
- ・Oceania Regional Senior Tennis Championships シングルス (準優勝) / ダブルス (優勝)
- ・SENKO CUP ITF Senior in Bangkok シングルス (優勝) / ダブルス (準優勝)
- ・ドイツ、テニスブンデスリーグ (全勝)
- ・JSH Hotel collection Championships Italy シングルス (優勝) / ダブルス (優勝)
- ・Mont-Tremblant ITF Cup カナダシングルス (準優勝) / ダブルス (優勝)

【2021年】

- ・European Senior Championships 男子40歳以上ダブルス (優勝)
- ・ポロビア大会 (優勝)

【2022年】

- ・日本代表選手としてエース選出 (国別団体戦)
- ・ITF1000 Gold Coast Tennis Senior Queensland Champs シングルス (優勝) / ダブルス (優勝)
- ・USTA1000 Westlake village Men's 45 Hard Court Championships シングルス (優勝) / ダブルス (準優勝)
- ・カナダ ITF1000 MONT-TREMBLANT CUP シングルス (ベスト4) / ダブルス (準優勝)
- ・アメリカ 1000 FT LAUDERDALE MENS 40&45 MIXED CLAY CHAMPIONSHIPS シングルス (ベスト4) / ダブルス (準優勝)
- ・オーストラリア MT1000-MELBOURNE OCEANIA REGIONAL TENNIS CHAMPIONSHIPS シングルス (優勝) / ダブルス (優勝)
- ・MT700-AICHI SENKO CUP シングルス (優勝) / ダブルス (優勝)

【2023年】

- ・Swan Hill Tennis Australian Championships シングルス (優勝) / ダブルス (優勝)
- ・Melbourne Oceania Regional Championships シングルス (ベスト4) / ダブルス (優勝)
- ・20th Int.Wilson Masters Open by Ali Bey Club Manavgat Turkey シングルス (準優勝) / ダブルス (優勝)
- ・ITF Senko Cup in Yamanashi シングルス (優勝) / ミックスダブルス (優勝)

【2024年】

- ・MT1000 MEXICO CITY 男子50歳以上ダブルス (優勝)
- ・28th Mallorca World Tennis Masters Tournament 男子50歳以上ダブルス (優勝)

Rio Kikuchi

菊地 りお **ゴルフ**

幼い頃の憧れを求め、夢に向かって進む

幼少期に宮里藍選手に憧れ、ゴルフの道を志しました。ゴルフは毎回異なる条件で、知識や経験を積み重ねることが必要な終わりのないスポーツ。難しさの中に新しい発見やチャレンジがあります。試合やラウンドではプレーに集中し、自分の力を最大限に引き出して、さらなる高みを目指し続けます。

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、YエイジC、Yエイジイーオン

【Profile】

- 【2018年】
 - ・栃木県知事杯 (優勝)
- 【2019年】
 - ・栃木県女子オープン (優勝)
 - ・マイナビネクストヒロインゴルフツアーファイナル (優勝)
- 【2022年】
 - ・プロテストファイナル出場
- 【2024年】
 - ・第10戦みちのくコカ・コーラ レディース (9位)
 - ・第9戦マイナビカップ (2位)

Amane Yanagimoto

柳本 あまね

車いす バスケットボール

競技力向上に向けた情熱

さらなる競技力向上に努めて、これからも新たな挑戦を続け、自分自身を磨いていくことを目指します。

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、Y エイジ C、Y エイジ イーオン、サイレントナイト

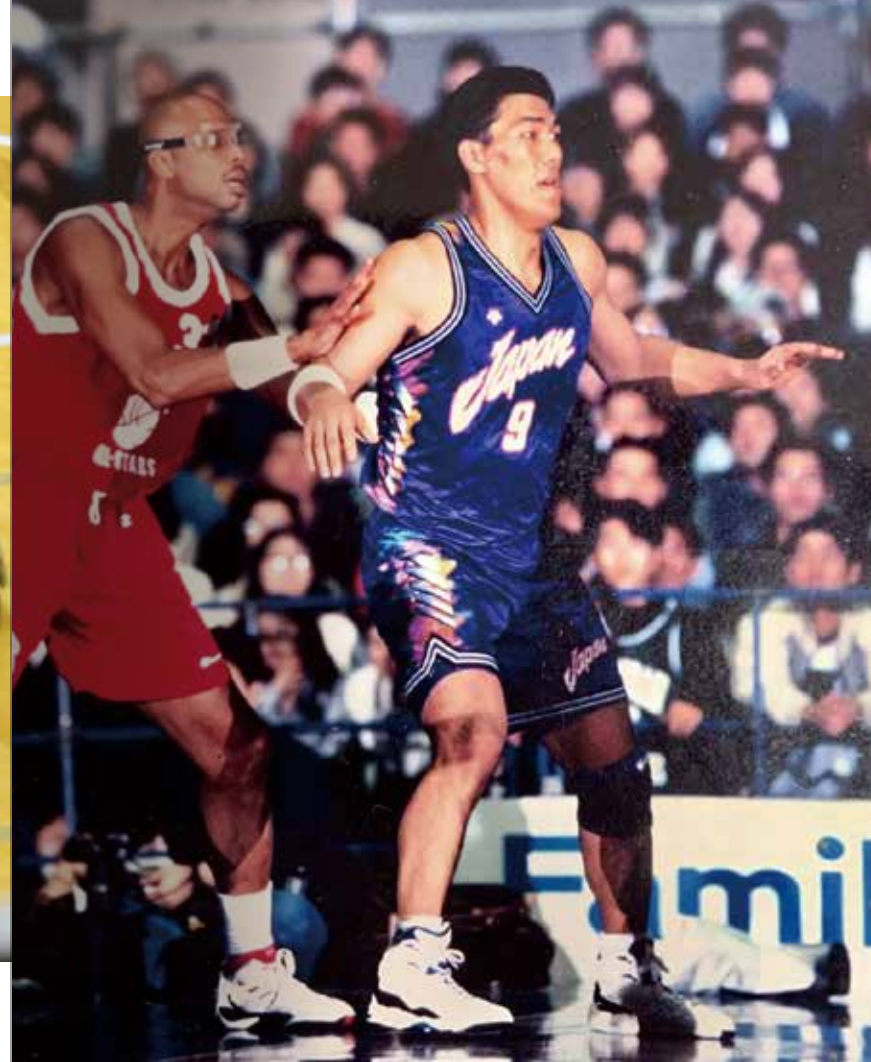
【Profile】

- 【2020年】
 - 国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会 (3位)
- 【2021年】
 - 東京パラリンピック (6位入賞)
- 【2022年】
 - 皇后杯 優勝 個人賞として MVP 獲得
 - AOZ 予選大会 (準優勝)
- 【2023年】
 - 国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会 (3位)
- 【2024年】
 - パリパラリンピック 7位入賞



Takatoshi Ishibashi

石橋 貴俊 バスケットボール



楽しむ姿を多くの人に

身長 210 センチ、体重 135 キロの体格を活かし、バスケットボールの日本代表として活躍してきました。引退後はプロコーチとしてチームを指導し、芸能活動にも取り組んでいます。健康を保ちながら、50歳を過ぎても若々しさを維持し、SNSを通じて楽しんでいる姿を多くの人に伝えたいと考えています。

【お気に入り製品】

X39、X49、Y エイジイーオン、アラビダ

【Profile】

- 選手活動
 - 【1993年】天皇杯優勝 日本リーグ(現在のB1リーグ) 新人王獲得
 - 【1995年】日本リーグ準優勝、日本代表、オリンピック予選アジア大会 (3位) (銅メダル)
 - 【1997年】天皇杯準優勝
 - 【1998年】全日本実業団選手権 (準優勝)
 - 【2000年】国民体育大会 (優勝)
 - 【2001年】全日本クラブ選手権 (準優勝)
 - 【2002年】全日本クラブ選手権 (優勝)
 - 【2011年】全日本マスターズ選手権 (40歳以上) (準優勝)
 - 【2022年】全日本マスターズ選手権 (50歳以上) (準優勝)
- コーチ活動
 - 【2008年以降】富山グラウジーズヘッドコーチ、滋賀レイクスターズヘッドコーチ、信州ブレブウォリアーズヘッドコーチ、埼玉ブロンコスヘッドコーチ、和歌山トライアックスヘッドコーチ、八王子ビートレインズヘッドコーチ、八王子ビートレインズ U15 ヘッドコーチ兼アンバサダー 等
- 芸能活動
 - 【2015年】吉本興業スポーツ部に所属
 - ・TV 出演
 - 【2018年】有吉ゼミ (大食い)
 - 【2019年】有吉反省会 (世の中のサイズ感を狂わせたということで反省しました)
 - 【2021年】アウトデラックス (身長がアウトな人ということで)
 - ・YouTube 210cmの目線カメラで人混みを歩いたり、身長を伸ばす方法などの動画を主に配信

Ryukyu Corazon

琉球コラゾン

ハンドボール

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、アイスウェーブ、YエイジC、
Yエイジイーオン、サイレントナイト



沖縄の心を世界へ

琉球コラゾンは、沖縄を拠点とする地域密着型のハンドボールクラブチームで、日本のハンドボール界の最高峰リーグに所属しています。チーム名の「コラゾン」はスペイン語で「心」「ハート」「魂」を意味し、「沖縄から世界へ」を合言葉に挑戦を続けています。2004年にハンドボール王国宣言をし、日本一を100回以上達成し、26名の代表選手を輩出しています。技術向上だけでなく、人間形成や地域活性化にも力を入れています。選手たちはパフォーマンス向上のため、質の良い睡眠やバランスの取れた食事に気を配りながら、観客に感動を与えるプレーを続けることを目指しています。

【Profile】

- 【2008年】
 - 日本リーグ参戦、高松宮記念杯第49回全日本実業団ハンドボール選手権大会(8位)
- 【2012年】
 - 国際大会初出場(香港国際)3位、年間優秀チームの表彰を授与(トップリーグ連携機構より)
- 【日本ハンドボールリーグ】
 - 2012-2013年(5位)、2014年(4位)、
 - 2015-2016年(6位)、2017年(8位)、2018年(9位)
- 【全日本社会人選手権】
 - 2015年(8位)、2016年(6位)、2017-2018年(7位)
- 【日本選手権大会】
 - 2015年(3位)、2016-2018年(ベスト8)

Makoto Hoshino

星野 誠 指揮者

LIFE WAVE = Believe & Hope, Love Family
信頼と希望、愛、世界の平和と幸せのために



私は30年前から教会音楽に専念し、還暦を超えた今も、世界各地で音楽監督や指揮者として活動を続けています。指揮者の活動は『集中力』、『精神力』、『バランス感覚』、『音感』、『統率力』、そして『体力』など、ありとあらゆる能力が要求され、心身共に消耗します。そのため、健康管理には特に気を配り、日々の食事やトレーニングを欠かしません。音楽には、人々に感動を与え、時には人を癒す力があると知られています。これからも指揮者として、健康と信頼と希望、愛、世界の平和と幸せのために、生涯現役でタクトを全身全霊で振り続け、喜びや感動をお届けしてまいります。

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、YエイジC、
YエイジG、Yエイジイーオン

【Profile】

- Doctor of Christian Music,
- 日本フィルハーモニー交響楽団
- 東京フィルハーモニー交響楽団など世界の多くの楽団を指揮
- 1992年より教会音楽に専念
- 近年では、恵まれない国の子どもたちへの支援や音楽指導にも力を注ぎ、ヨーロッパではウィーン楽友協会ホール公演、また韓国をはじめとするアジア全域、アメリカではNYカーネギーホールで公演を成功させるなど、日本から世界に活躍の舞台が広がっている。
- 東京シモンフィルハーモニーオーケストラ、東京シモンコーラス、ソウルシモンコーラス、
- 音楽監督・常任指揮者
- NPO ワールドユースオーケストラ協会
- 音楽監督・常任指揮者
- 日本クリスチャン音楽大学学長



Yamato Mashiko

益子 倭 **バレエ**

踊り続ける使命

バレエは、単なる身体の動きにとどまらず、音楽や物語、内面の表現が融合した総合芸術です。バレエでは、ひとつひとつの動きが決められており、幼少期から地道な訓練を日々積み重ねてきました。観客の皆さまに非日常の世界を提供し、感動を味わっていただけることが、プロのダンサーとして何よりの喜びです。バレエ団を退団し、新たな芸術活動を模索する中で、ダンサー、指導者、振付家、そして YouTuber としても活動の幅を広げています。僕は、ただ踊ること、表現することが大好きです。持てるすべての情熱を発信し、素晴らしい作品を多くの皆さまにお届けしていきたいと思えます。

【お気に入り製品】 X39、Y エイジ C



【Profile】

志村昌宏・有子バレエスタジオでバレエを始める
【2008年】
K-BALLET SCHOOL に入學
英国エルムハーストスクールに留學。2011年同校卒業
【2010年】
第38回ローザヌ国際バレエコンクール
セミファイナリスト
【2012年4月】
K-BALLET COMPANY(現 K-BALLET TOKYO) にアーティストとして入団
2014年8月にファースト・アーティスト
2017年9月にソリストに昇格
【2019年7月】
同カンパニー退団
主な出演作は、『海賊』のアリ/ランケテム、『眠れる森の美女』のブルーバード、『くるみ割り人形』の雪の王/花のワルツのソリスト、『ロミオとジュリエット』のマキューシオ/ペンヴェーリオ、『シンデレラ』の王子の友人/2人の道化師、『ジゼル』のパ・ド・シス、『白鳥の湖』のペンノ/パ・ド・トロワ、『ラ・バヤデル』のブロンズ・アイドル、ローラン・プティ振付『アルルの女』ではフレデリを踊り主演を務める。
【2014年1月】
新春スペシャルドラマ『眠りの森』(TBS)に柳生講介役で出演。元バレエジェッツのメンバー。
【2020年12月】
志村バレエ第11回公演、山本康介版『くるみ割り人形』で主演を務める。
【2021年1月】
札幌の石川みはるバレエ研究所 創立70周年記念公演、長瀬伸也版『くるみ割り人形』で主演を務める。
【2020年6月】
YouTube チャンネル
『YAMATO's Ballet Channel/やまちゃん』開設。

Yumeno Mashiko

益子 夢乃 **バレエ**

芸術の素晴らしさを伝え続ける

子どもの頃からの夢であったバレエに携わる仕事を兄と共に歩むことができ、多忙ながらも充実した毎日を送っています。現在、幼児から大人まで幅広い世代にバレエの魅力を伝える講師として活動しています。バレエを始めて約20年が経ちますが、これまで大きな怪我もなく続けてこられました。バレエ講師は不規則になりがちなのでこれまで以上にパワーとエネルギーが必要です。多くの方にバレエを楽しんでいただけるよう明るく、楽しく指導してまいります。

【お気に入り製品】 X39、Y エイジ G

【Profile】

志村昌宏・有子バレエスタジオでバレエを始める
【2007年】
オーストラリアに短期留學
【2008年】
K-BALLET SCHOOL に入學
前田真由子、徳井美可子に師事。その他多くの K-BALLET group 教師から指導を受ける。同校 school performance で『白鳥の湖』よりマズルカのソリスト、『イーゴリ公』よりダッタン人の踊りで村娘の隊長を踊る。
【2011年】
ハンガリー国立バレエ学校に入學
在学中、ハンガリー国立歌劇場で行われた公演に出演。その他数々の舞台で踊る。
【2016年】
同校卒業。
K-BALLET COMPANY(現 K-BALLET TOKYO) 『くるみ割り人形』にアパレンティスとして出演。
【2017年】
K-BALLET SCHOOL ティーチャーズ・トレーニング修了
現在、講師として活動する傍ら海外からの講師陣によるワークショップなどで通訳なども務める。





Mako Karibe

苺部 真子 **社交ダンス**

健康と若さを広める架け橋に

スタジオ代表としてレッスンで充実した日々を送りながら、社交ダンスの選手育成に取り組んでいます。職業柄、肩こりや筋肉痛などありますが、常に身体のメンテナンスに気を配りながら、健康と若さを保つことの大切さを感じています。これからもダンスを通じて、多くの方にその魅力を伝えてまいります。

【お気に入り製品】
X39、Yエイジ C、Yエイジ G、Yエイジ イーオン

【Profile】
17 歳から社交ダンスを習い始める
18 歳教師資格取得、同時に競技ダンスに励む
【1987 年】
渡米し、13 年間ロスアンゼルスニューポートビーチに在住
同時期にアメリカの協議会に出席
【1998 年】
・アメリカ全米選手権ファイナリスト
【1999 年】
日本に帰国
・統一全日本 10 ダンス選手権 (2 位)
【2000 年】
・10 ダンス世界選手権 日本代表選手
【2002 年】
・ロンドン UK 選手権ライジングスターズスタンダード部門ファイナル
・ロンドンインター選手権ライジングスターズスタンダード部門ファイナル
【2004 年】
・統一全日本スタンダードファイナル

現在は選手権などの審査員や選手の育成に努める。
横浜市鶴見にてスタジオを運営し、20 年が経過。

Ryotaro Okawa

大川 良太郎 **舞台俳優**

舞台を通じて、街と人を笑顔で繋ぐ

7 歳で初舞台を踏んで以来、約 30 年演劇の世界に身を捧げてきました。元々は野球が好きでしたが、15 歳で大衆演劇に出会い、憧れの里見要次郎さんの舞台に感銘を受け、役者としての道を選びました。舞台は映画とは異なり、お客さまの反応がダイレクトに伝わります。そのため、観客と共に楽しみ、「良かった」と言ってもらえることが、演技を続ける励みになります。お客さまが身体や気持ちが元気に感じられる舞台を提供していきたいと思っています。また、「劇団九州男」の座長として劇団員とのコミュニケーションを大切に、地域を活性化させる舞台を提供することに情熱を注いでいます。これからも大衆演劇の魅力を広める活動続け、観に来てくださる皆さまに心躍る舞台をお届けするために頑張ります。

【お気に入り製品】 X39、Yエイジ C、Yエイジ イーオン



【Profile】
大阪府大阪市出身の日本の俳優。
大衆演劇の劇団『劇団九州男』の座長をつとめる。
大衆演劇の舞台を中心に活動する傍ら、紅白歌合戦、水戸黄門他舞台以外でも活躍の場を広げる。
2020 年 11 月から 2021 年 5 月まで放送された NHK 連続テレビ小説『おちょやん』で演じた漆原要二郎役はツイッタートレンド入りするほどの大反響を呼んだ。大衆演劇の役者としての枠を超えて、日本文化芸術に欠かせない存在の俳優である。



Masaki Akiyama

秋山 正輝

パラ陸上(やり投げ・円盤投げ・砲丸投げ)



障がいにも加齢にも闘い勝ち続ける

20歳まで自転車競技で世界大会を目指していましたが、事故により障がいを抱え、パラ陸上へ転向しました。陸上投てき競技では、上半身を駆使して、やりや円盤などの投てき物がきれいな放物線を描く瞬間に魅了されています。障がいを克服し、さらに加齢にも負けず、メンタルを保ちながら世界大会に挑戦し続けることが私の目標です。これからも限界を超えて成長し、競技に打ち込む日々を大切にしていきます。

【お気に入り製品】 X39、X49、エナハンサ、アイスウェーブ、YエイジC、Yエイジイーオン、アラビダ

【Profile】

パラ陸上 F37 脳性麻痺クラス
【2017年】
・ロンドン世界選手権やり投げ(6位入賞)
【2018年】
・フランスパワワールドパラグランプリ陸上やり投げ(3位)
【2019年】
・北京ワールドパラグランプリ陸上やり投げ(3位)
【2021年】
・日本パラ陸上競技選手権大会やり投げ(1位)
・ジャパンパラリンピック陸上やり投げ(1位)
【2022年】
・日本パラ陸上競技選手権大会やり投げ(1位)
・ジャパンパラリンピック陸上やり投げ(1位)(F37やり投げ現日本記録保持)
【2023年】
・日本パラ陸上競技選手権大会やり投げ(1位)/砲丸投げ(2位)
【2024年】
・ジャパンパラ陸上競技大会やり投げ(金メダル)/円盤投げ(金メダル)
・世界パラ陸上競技 公式世界ランキング 2024 F37男子やり投げ世界ランキング7位

Wataru Sakamoto

坂本 渉 パラ陸上(やり投げ・砲丸投げ)

限界を超えて、さらなる飛躍を目指す

短距離走からの転向を経て、2016年にやり投げに出会い、座位投てきの道を選びました。立位と座位の両方で同じ距離が出た時、競技への情熱が再燃し、1センチでも遠くへ飛ばすことの面白さを実感しています。パラ競技を通じて出会った仲間や支えてくれる人々の存在が、私をさらに成長させ、パラリンピックでの金メダル獲得を目指す強い動機となっています。



【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、YエイジC、YエイジG、Yエイジイーオン

【Profile】

パラ陸上 F34 脳性麻痺クラス
【2020年】
・第32回日本パラ陸上競技選手権大会 砲丸投げ(1位)、やり投げ(1位)
・第25回関東パラ陸上競技選手権大会 砲丸投げ(1位)、やり投げ(1位)
【2021年】
・2021ジャパンパラ陸上競技大会 砲丸投げ(1位)、やり投げ(1位)
・READY STEADY TOKYO—パラ陸上競技 砲丸投げ(1位)
【2022年】
・2022ジャパンパラ陸上競技大会 砲丸投げ(1位)、やり投げ(1位)
・第33回日本パラ陸上競技選手権大会 砲丸投げ(1位)、やり投げ(1位)
【世界ランキング】
・2020年：砲丸投げ(20位) やり投げ(16位)
・2021年：砲丸投げ(39位) やり投げ(31位)
・2022年(2022年9月22日現在)：
砲丸投げ(39位) やり投げ(32位)

Miho Uebe

上部 美帆 **パラ陸上 (座位投てき)**



より良いパフォーマンスで、世界を目指す

2008年に脳出血を発症し右半身に障がいが残ったことをきっかけに、2017年からパラ陸上の座位投てきを始めました。自分の限界に挑戦し続ける中で、特に大切にしているのは疲労の早期回復です。より高いパフォーマンスを目指すには、疲労を素早く解消し、心身の安定を保つことが鍵。世界大会での活躍を目標に、今後も頑張ります。

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、Yエイジ C、Yエイジイーオン、アラビダ

【Profile】

- パラ陸上 F34 脳性麻痺クラス
- 【2021年】
 - ・日本パラ陸上競技選手権大会 やり投げ (1位)、砲丸投げ (1位)
 - ・ジャパンパラリンピック陸上 やり投げ (1位)、砲丸投げ (1位)
- 【2022年】
 - ・ジャパンパラリンピック陸上 やり投げ (1位) (日本記録)、砲丸投げ (1位) (日本記録)
 - ・日本パラ陸上競技選手権大会 やり投げ (1位)、砲丸投げ (1位)、円盤投げ (1位) (日本記録)

Koshiro Fujiwara

藤原 孝史朗 **円盤投げ**



メンテナンスでポテンシャルを引き上げる

強度の高いトレーニングや投げ込みを行った翌日は、疲労感が強く残り、思うように練習できない日がありました。整骨院やストレッチ、今では自分に合うケアを取り入れながら、疲れを翌日に残さないよう体調管理をしっかり行っています。毎日万全の状態での練習を積むことができるようにすること、それが競技の成績にも影響してきます。これからも世界大会出場を目標に、さらに記録を伸ばせるよう練習に励みます。



【お気に入り製品】 X39、Yエイジ C

【Profile】

- 【2018年】
 - ・U18 全国陸上競技大会 男子円盤投 (3位)
- 【2019年】
 - ・第70回 沖縄陸上競技選手権大会男子円盤投 (優勝)
 - ・国民体育大会 少年男子共通円盤投 (優勝)
- 【2020年】
 - ・U20 全国陸上競技大会 男子円盤投 (3位)

【2021年】

- ・東京オリンピック競技大会陸上日本最終メンバー
- ・日本選手権出場
- 【2022年】
 - ・第91回日本学生陸上競技対校選手権大会 (日本インカレ) 円盤投げ (2位)
- 【2023年】
 - ・第107回日本選手権 男子円盤投 (6位)

【2024年】

- ・第2回九州共立大学チャレンジ競技 男子円盤投げ (1位) (沖縄県 県記録)
- ・天皇賜盃 第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投 (2位)
- ・自己ベスト 55m78cm
- ・沖縄県記録更新
- ・学生歴代 9位

Yukine Toshinaga

歳永 ゆきね

フリーダイビング

深海への挑戦、限界を超えて

フリーダイビングを始めたきっかけは、もっと長く水中にいたいという強い思いからでした。競技に参加し、一息で潜れる距離や深さが日々伸びていくことに喜びを感じていますが、アスリートとしての道は決して平坦ではありません。元々アーティスティックスイミングや競泳などを行っていましたが、どんな競技にも怪我や故障はつきものなのでケアが欠かせません。

トレーニング後の疲労回復や体調管理に気を配りながら、世界の海でさらなる挑戦を続け、深く長く世界の海を潜りたいと思います！



【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、Y エイジ C、Y エイジ G

【Profile】

- 2019年5月
- フリーダイビングプール競技日本選手権 女子総合(2位)
- 2020年10月
- INFINITY DEPTH GAMES7 フリーダイビング 海洋競技出場(開催地 キプロス共和国) CNF 43m 優勝 / CWTB 40m 準優勝
- 2020年 CNF 世界ランキング 4位
- 2021年9月
- フリーダイビング海洋競技 世界選手権出場(開催地 キプロス共和国) CNF 47m (6位入賞) / CWTB 46m (23位) CWT 50m (25位)
- 2021年10月
- FREEDOM DEPTH GAMES 海洋競技(開催地 キプロス共和国) CNF 54m (3位)
- 2021年 CNF 世界ランキング 7位
- 2022年9月
- フリーダイビング海洋競技 世界選手権出場(開催地 ホンジュラス) CNF 47m 12位 / CWTB 53m (11位) CWT 55m (10位)
- 2023年
- AIDA World Championship 2023 CNF 51m (5位) CWTB 55m (22位)(自己ベスト更新) FIM 55m (18位)(自己ベスト更新)
- アーティスティックスイミング世界マスターズ選手権 40代ソロテクニカル(6位)、ソロフリー(5位)
- 2024年
- アーティスティックスイミング世界マスターズ選手権 40代ソロテクニカル(7位)、ソロフリー(8位)
- 沖縄フリーダイビングカップ 2024 女子総合(3位) CWTB 57m(自己ベスト更新) CNF 48m、FIM 53m
- Volcano Cup 2024 CWT 60m、CWTB 64m(共に自己ベスト更新)

Fumi Sonezaki

曾根崎 史

フリーダイビング

フリーダイビングで海の魅力を伝え続ける

フリーダイビングは、息を吸って・止めて・潜るというシンプルな動きの中に、自分の内なる可能性を追究し続けたくなる奥深さがあり、それに惹かれるまま競技を続けています。

海の中では低酸素と陸の数倍から十数倍の水圧負荷に耐えながら運動するため、強い疲労感を覚えることもしばしばあります。競技特性上、呼吸の質と心身のリラックスが結果に影響するため、特にストレスコントロール・食事・睡眠の質には気を使います。

呼吸ができない水中なのに自由が感じられるフリーダイビングの面白さを、身近な海の美しさや素潜りの魅力と共に伝え続けたいです。



【お気に入り製品】

X39、エナハンサ、サイレントナイト、Y エイジ G

【Profile】

- 2016年
- フリーダイビング競技開始
- 2018年
- AIDA フリーダイビング世界選手権(プール) STA 出場
- 2021年
- AIDA フリーダイビング世界選手権(海洋) CNF / FIM 出場
- 2024年
- CMAS Freediving Depth 世界選手権(開催地 ギリシャ) 日本代表(海洋)CWTB 65m、CWT61m 2種目とも自己ベスト10m以上の大幅更新を達成
- 【公式自己ベスト記録(国内ランキング)】 総合 13位
- CNF 37m (11位)
- CWT 61m (16位)
- CWTB 65m (8位)
- FIM 45m (26位)

■フリーダイビング競技説明

- 【CNF：フィンなし潜水種目】
- フィンを使わず裸足で自分の泳力のみで潜降浮上し、到達深度を競う種目
- 【CWT：フィンあり潜水種目】
- フィンを使って(形状は問わない)潜降浮上し、到達深度を競う種目
- 【CWTB：2枚フィン潜水種目】
- 2枚のフィンを使用し、身体に装備した重さを変えずに潜ることのできる深度を競う種目
- 【FIM：ロープ潜水種目】
- 潜降ロープを手でたぐって潜降浮上し、到達深度を競う種目
- 【STA：閉息潜水種目】
- 水中で息を止める時間の長さを競う種目

Kiyoshi Kawamura

川村 清司

パワーリフティング

ハンガリーナショナルチーム
コーチ
元全日本スキー連盟
アルペン男女ヘッドコーチ

現役アスリートからコーチへ追い求める自己への挑戦

5歳の家族旅行で出会ったスキー。それが私の全ての始まりでした。最初は滑れなかったものの、兄たちに勝ちたい気持ちから、次第にスキーが楽しくなっていました。基礎スキーという技術表現が主のスキーから始め、20歳の時に大きな転機が訪れプロの世界に飛び込みました。1996年には長野オリンピックに向け、全日本スキー連盟のコーチとして招かれ、現役アスリートからコーチへ転身しました。トップクラスの選手を教えるには身体感覚を研ぎ澄まし、教える難しさもありましたが、選手の成長と結果が私に大きな喜びを与えてくれます。現役のパワーリフティング選手として、スキーのコーチとして挑戦を続けながら、結果を残すために全力で取り組んでまいります。



【お気に入り製品】 X39、X49

【Profile】

Alpine Support 代表 / ハンガリーナショナルチームコーチ /
元アルペンジュニアナショナルチームコーチ / 元全日本スキー連盟アルペン男女ヘッドコーチ
【2014年6月】
・世界クラシックマスターズ パワーリフティング選手権 66kg 級 M1 (5位)
【2014年10月】
・全日本実業団パワーリフティング選手権 66kg 級 M1 (優勝)
【2015年9月】
・全日本クラシックマスターズ パワーリフティング選手権 59kg 級 M1 (優勝)
【2016年6月】
・世界クラシックマスターズ パワーリフティング選手権 59kg 級 M1 (2位)
【2019年10月】
・全日本クラシックマスターズ パワーリフティング選手権 66kg 級 M2 (優勝)



Shinya Miyamoto

宮本 慎矢 アルペンスキー



攻めの滑りで手にした栄冠と、さらなる挑戦へ

スキー競技において、標高の高い場所でも集中してトレーニングを続け、2021年の全日本選手権・回転では2位という自己最高の成績を残すことができました。2022年も好調を維持し、国民体育大会やアジアの大会で優勝することができましたが、シーズン途中で靭帯を切る怪我に見舞われ、後半は競技から離れました。皆さまの温かいサポートに感謝し、今後もさらなる飛躍を誓います。

【お気に入り製品】
X39、YエイジC

【Profile】

【2014年】
・全日本学生スキー選手権 回転 優勝
【2015年】
・ユニバーシアード日本代表
・全日本選手権 大回転 (4位)
【2017年】
・全日本選手権 回転 (4位)

【2019年】
・アジアコンチネンタルカップ (Far East Cup) 韓国大会 (3位)
・FIS 公認大会 (優勝) 2回
【2020年】
・国民体育大会 (優勝)
【2021年】
・全日本選手権 回転 (2位)
【2023年】
・特別国民体育大会冬季大会スキー競技会 大回転 (優勝)



Hina Honda

本田 陽菜 アルペンスキー



最高のパフォーマンスを目指して

兄の影響で始めたアルペンスキー。その魅力は勝った時の喜びとゲレンデならではの景色の素晴らしさにもあります。厳しいトレーニングに励み、たった1人しか立てない表彰台の一番高い場所に登った瞬間は、その努力が報われたと思えます。その最高の瞬間のためにこの競技に没頭してきました。ゲレンデの神秘的な風景や、空気の澄んだ場所での練習は、特別な体験です。私の夢は、ワールドカップ総合優勝とオリンピック出場。これからも夢に向かって挑戦し続けます。

【お気に入り製品】 X39、X49、YエイジC

【Profile】

- ・第55回 全国中学校スキー大会 GS (3位)・SL (3位)
- ・第68回 全国高等学校スキー大会 GS (4位)・SL (5位)
- ・第31回 全国高等学校選抜スキー大会 SG (6位)・GS (9位)
- ・第69回 全国高等学校スキー大会 GS (5位)・SL (6位)
- ・第70回 全国高等学校スキー大会 GS (6位)・SL (2位)
- ・第37回 全日本学生アルペンチャンピオン大会 GS (1位・2位) SL (4位・7位)
- ・第77回 国民体育大会 (4位)
- ・第95回 全日本学生スキー選手権大会 SL (1位)
- ・第35回 ゴールドウインカップ阿寒スラローム大会 SL (1位)
- ・秩父宮杯・秩父宮妃杯 第96回 全日本学生スキー選手権大会 SL (2位)、GS (6位)
- ・FIS ファーイーストカップ 2023 阿寒大会 SL (5位)
- ・FIS ファーイーストカップ 2023 菅平高原 SL (5位)



Kyohei Mitsui

光井 恭平 アルペンスキー



雪上での限界に挑む

スキー競技に取り組む中で、標高の高い場所や雪上トレーニングでは身体に大きな負担がかかります。特に負荷の高いトレーニング日は、疲労を感じやすいため、次の日に向けた回復が重要です。日々の疲労軽減や体調管理を意識しながら、質の高いトレーニングに集中し、さらなる成長を目指して挑戦し続けています。

【お気に入り製品】 X39、YエイジC

【Profile】

- 【2008年】
- ・全国中学スキー大会 回転 (準優勝)
- 【2011年】
- ・インターハイ 回転 (準優勝)
- 【2015年】
- ・国民体育大会 大回転 (3位)
- 【2017年】
- ・全日本選手権 大回転 (準優勝)
- 【2019年】
- ・国民体育大会 大回転 (優勝)
- 【2020年】
- ・国民体育大会 大回転 (準優勝)
- 【2021年】
- ・全日本選手権 大回転 (3位)
- 【2023年】
- ・特別国民体育大会 大回転男子 B (3位)



Akihiro Yasui

安井 章博

スキー技術選



全日本選手権の頂点を目指す

小学生から高校生までアルペンスキーに打ち込み、高校卒業後はスキーの総合技術を競う大会（技術選）に転向しました。技術選で高得点を出した瞬間や、仲間と共に努力した成果を大会で実感できる喜びにやりがいを感じています。普段は農業をしながら、仕事やトレーニングに加えて、ストレッチを欠かさず、睡眠をしっかりとることでパフォーマンスの向上を目指しています。目標は全日本選手権での優勝です。コツコツと成績を積み上げ、優勝までたどり着きたいです。

【Profile】

スキー雑誌「月間スキーグラフィック」2022年度カレンダー10月の写真として掲載される

富良野・カムイ・トマム3つのスキー場の共通公式アンバサダーに選出

- ・第58回北海道スキー技術選手権大会（7位）
- ・第58回全日本スキー技術選手権大会（新人賞）
- ・2022年北海道スキー技術選手権大会（優勝）
- ・第59回全日本スキー技術選手権大会種目別大回り（1位 / 総合14位）

【お気に入り製品】

X39、X49、YエイジC



Toshiyuki Sueki

末木 利幸

チェアスノーボード



大きな夢と共に100分の1秒を追い求める

夏のトレーニング中の事故で両足を開放骨折し、左脚の関節を失いスノーボードが滑走できなくなりました。それでもスノーボードを続けたいという強い気持ちから、2012年にチェアスノーボードを開発しました。座って滑ることで生まれる圧倒的なスピード感は、バイクのような迫力をもたらし、100分の1秒を追い求める感覚の素晴らしさは、健常者と障がい者が共に競い合う醍醐味につながっています。私の目標は、チェアスノーボードが新たなスノースポーツとして認められることです。健常者と障がい者が一緒に楽しめるスポーツとして、オリンピックやパラリンピックの種目にするために活動していきたいと考えています。

【お気に入り製品】

X39、YエイジC、サイレントナイト

【Profile】

JCSBA 全日本チェアスノーボード選手権大会

- 【2015年】
 - ・オープン男子（優勝）
- 【2016年】
 - ・オープン男子第1戦（3位）/ 第2戦（優勝）シリーズチャンピオン
- 【2017年】
 - ・PROクラス第1戦（優勝）/ 第2戦（準優勝）日本ランキング1位
- 【2018年】
 - ・PROクラス全戦（優勝）日本ランキング1位
- 【2019年】
 - ・PROクラス第1戦（3位）/ 第2戦（準優勝）日本ランキング（2位）
- 【2020年】
 - ・PROクラス全戦（優勝）日本ランキング1位
- 【2021年】
 - ・PROクラス全戦（優勝）日本ランキング1位
- ・日本チェアスノーボード協会 代表理事





Takanori Hatakeyama

畑山 隆則 **ボクシング**

**並外れた才能と強さで世界を制した
天才ボクサー**

幼い頃からスポーツが得意で、高校時代には甲子園を目指していましたが、辰吉丈一郎選手の世界タイトル戦を観て感動し、プロボクサーの道を志しました。1993年にプロデビューし、史上3番目となる11連続KO勝ちを達成。その後、23戦無敗で世界王座を獲得しました。一度は現役を退きましたが、1年後1階級上の世界タイトルに挑戦し、勝利を収め、その後2002年に現役を引退しました。引退後は経営者として事業を展開し、元WBA世界ミドル級王者の竹原慎二氏と共にボクサ・フィットネス・ジムを設立しました。東日本ボクシング協会に加盟し、プロ選手の育成にも取り組み、女子の世界王者も輩出しています。経営とボクシングの共通項は、地道にコツコツと続けることで、いずれは大きな花を咲かせることにつながると考えています。

【お気に入り製品】
X39、X49、アイスウェーブ、YエイジC、Yエイジイーオン、サイレントナイト

【Profile】
1993年6月デビュー
1993年度全日本スーパーフェザー級新人王
第28代OPBF東洋太平洋スーパーフェザー級王者
第34代日本スーパーフェザー級王者
第19代WBA世界スーパーフェザー級王者
第29代WBA世界ライト級王者
戦績：29戦24勝(19KO)2敗3分
**【著書】『拳運』 - 強運ボクサー畑山隆則・自伝
『ボクシング界のぶっちゃけ話』『昭和平成ボクシングを語ろう！』**

Rintaro Yoshida

吉田 凜汰朗 **キックボクシング**

【お気に入り製品】
X39、エナハンサ、アイスウェーブ、YエイジC

【Profile】
【競技成績】
国内19戦9勝6敗4分、国外3戦2勝1分

自分の思い描く動きを実現する挑戦

キックボクシングでは、ミット打ちやシャドーボクシングで身体全体の運動性を意識しながらトレーニングを行っています。試合での軽やかな動きを追求し、自分のイメージ通りに身体を動かせる瞬間が喜びです。翌日に疲労を残さないためにも、ケアはしっかり行っています。これからも最高のパフォーマンスを目指し、目標に向けて挑戦を続けます。



Yoko Yamada

山田 よう子 **アームレスリング/総合格闘技/プロレス**

100歳まで現役で挑み続けるために

5人の子どもを育てながら、アームレスリングの世界チャンピオンとして競技に挑み続けています。アームレスリングは肉体と精神を酷使する競技で、常に最高のコンディションを保つことが求められます。腰ヘルニアや筋断裂などの困難を乗り越え、100歳まで現役であり続けることを目指し、日々のトレーニングに励んでいます。これからも挑戦を続け、最高のパフォーマンスを発揮していきます。

【お気に入り製品】

X39、X49、アイスウェーブ、Yエイジ G、Yエイジイーオン、サイレントナイト、アラビダ



【Profile】

- ・【2002年～2012年】
- ・全日本アームレスリング選手権大会 11 連覇（日本最多）（優勝：2017～2019,2021）
- ・【2005年】
- ・世界アームレスリング大会 45kg 級（優勝）
- ・【2018年】
- ・韓国国際アームレスリング大会（優勝）
- ・【2019年】
- ・マレーシア国際チャリティマッチ PREMIER101（優勝）
- ・Zloty Tur World Cup 52kg 級（優勝）



Katsuhiko Nagata

永田 克彦 **レスリング**



年齢の壁に挑戦し、不可能を可能にする

年齢を重ねても、コンディションを維持しパフォーマンスを発揮できることを証明するために、2015年、42歳のときに10年ぶりに全日本選手権へ復帰し、歴代最年長優勝を果たしました。これからも自身の歴代最年長優勝記録の更新を目指して、年齢の壁を越え、不可能を可能にするため、限界に挑み続ける姿勢を貫き、日々トレーニングを続けていきます。

【お気に入り製品】

X39、X49、アイスウェーブ、エナハンサ、YエイジC、YエイジG

【Profile】

- ・【1997年 - 2002年】
 - ・全日本レスリング選手権大会グレコローマンスタイル（6連覇）
 - ・【2000年】
 - ・シドニーオリンピックレスリング グレコローマンスタイル（銀メダル）
 - ・【2000年】
 - ・アジア選手権（優勝）
 - ・【2015年】
 - ・全日本レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル（優勝）
- ※歴代最年長優勝記録



Takaaki Nakagami

中上 貴晶 **Moto GP**

極限のスピードと危険に挑み続ける

4歳の誕生日にポケットバイクをプレゼントされたことが、オートバイレーサーとしての原点です。6歳でレースデビューし優勝、その後9歳からミニバイクレースに出場し、全国大会で3年連続優勝を果たしました。10代からワールドグランプリに参戦し、現在は2輪レースの最高峰クラスであるMotoGPに出場しています。2020年第12戦テルエルグランプリで初のポールポジションを獲得しました。オートバイのレースは、生身の身体で時速300キロを超えるスピードで競い合う危険と隣合わせのスポーツ。そのスリルとスピード感にはない魅力です。身体とメンタルのバランスを整え、最高のパフォーマンスを発揮するために日々のトレーニングは欠かせません。今後はシリーズレースの優勝を目指すとともに、アジアでの2輪レース認知度を高め、2輪レースを目指す子どもたちの力になりたいと思っています。

【お気に入り製品】 X39、エナハンサ、アイスウェーブ、Yエイジ C、Yエイジ G、Yエイジ イーオン、サイレントナイト

【Profile】

- 【2001年】
 - ・ミニバイク全国大会 優勝 最年少出場・優勝記録
- 【2004年】
 - ・ロードレース GP125 クラス MFJ GP-mono 特別賞受賞
- 【2005年】
 - ・東日本チャレンジカップ選手権 GP125 クラス（優勝）
 - ・全日本ロードレース選手権 MFJ ルーキー・オブ・ザ・イヤー受賞
- 【2006年】
 - ・全日本ロードレース選手権 GP125 クラス（優勝）
 - ・最年少優勝記録 最年少優勝
 - ・スペイン選手権 GP125 クラス ランキング（12位）
- 【2007年】
 - ・スペイン選手権 ランキング（6位）
- 【2011年】
 - ・全日本ロードレース選手権 J-GP2 クラス（優勝）
- 【2017年】
 - ・MotoGP 世界選手権 Moto2 クラス ランキング（7位）
- 【2018年～2021年】
 - ・MotoGP 世界選手権
 - MotoGP クラス 2018(20位)、2019(13位)、2020(10位)、2021(15位)
- 【2024年】
 - ・MotoGP 第20戦ソリダリティ GP 決勝（17位）



Hiroko Ishii

石井 寛子 **バイクレース（競輪）**

還暦まで走りたい 記録を次々と塗り替える覇者

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、Yエイジ C、Yエイジ G、Yエイジ イーオン

【Profile】

- 【2012年】
 - ・ワールドカップ第1戦
 - チームスプリント（2位）、スプリント（9位）、ケイリン（9位）
- ・全日本選手権
- チームスプリント（優勝）、スプリント（2位）
- ・世界選手権
- チームスプリント（14位）
- ・アジア選手権
- チームスプリント（4位）
- 【2013年】
 - ・世界選手権
 - チームスプリント（8位）、スプリント（20位）、ポイントレース（12位）
- ・ワールドカップ第3戦 スプリント（16位）



Katsuhiko Taguchi

田口 勝彦 **ラリーードライバー**

さらなる高みを目指し、挑戦を続ける

父が全日本ラリーードライバーとして活躍していた影響で、ラリーードライバーの道を歩み始めました。全日本ダートトライアルチャンピオンを経て海外ラリーにも挑戦し、現在は国内競技のダートトライアルに参戦しています。2015年、2016年、2018年にシリーズチャンピオンを獲得し、2023年からは2年連続でタイトルを手に入れました。未舗装路でのスリルと達成感をしみつつ、自身の限界に挑み続けています。競技の激しい衝撃に備え、体幹や腕力を鍛えるとともに、健康管理にも気を配っています。50歳を超えた今も挑戦を続け、さらなる連覇と新たな目標の達成を目指します。

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、YエイジC、Yエイジイーオン、サイレントナイト



【Profile】

- 【1990年】モータースポーツデビュー（ダートトライアル）
- 【1994年】ラリーデビュー（ニュージーランドラリー）
- 【1996-1997年】マレーシア国内選手権 グループNカップシリーズチャンピオン
- 【1998-1999年】FIA アジア・パシフィックラリー選手権（1998年：3位）、（1999年：チャンピオン）【2004-2006年】FIA アジア・パシフィックラリー選手権（総合優勝）
- 【2008年】FIA 世界ラリー選手権 ラリージャパン 総合（16位）/ グループN・PWRC（7位）
- 【2010年】FIA アジア・パシフィックラリー選手権 シリーズチャンピオン
- 【2015年、2016年、2018年】全日本ダートトライアル選手権 シリーズチャンピオン
- 【2023年】JAF 全日本ダートトライアル選手権（Dクラス）シリーズチャンピオン・アジアクロスカントリーラリー（AXCR）（総合8位）
- ・おおよとヒルクライム 総合優勝
- 【2024年】JAF 全日本ダートトライアル選手権（Dクラス）シリーズチャンピオン・アジアクロスカントリーラリー（AXCR）（総合5位）
- ・おおよとヒルクライム 総合優勝
- ・MH ヒルクライム / 真庭速祭優勝

Satoshi Fukai

深井 諭 **フィジカル&メンタルトレーナー**

【お気に入り製品】

X39、X49、エナハンサ、YエイジC、サイレントナイト



【Profile】

- 【2004年】都内パーソナルトレーニングジムへ入社し、年間1500本のパーソナルトレーニングセッションを行い、多くの著名人やアスリートの肉体改造に携わる。
- 【2008年】大手スポーツクラブでスイミングセクションチーフとして、幼児からシニアまでの「水育」指導を行う。
- 【2012年】NESTA 認定ゴルフコンディショニングスペシャリスト取得。30歳からゴルフを始めたクライアントを4年でプロテスト合格に導く。
- 【2014年】神奈川県茅ヶ崎の地域密着型スポーツクラブに勤務し、小学生から高校生を対象にした「ジュニアアスリートクラス」を新設。競技のジュニアアスリート87名の指導を始める。
- 【2019年】FUKAI FITNESS CLUB 開業 【2020年】FUKAI KIDS ACADEMY 開講 【2022年】FUKAI MIND FITNESS 新設

「感情の防災訓練」で繋げる笑顔のバトン

私は湘南茅ヶ崎の山中で「感情の防災訓練」というフィジカルトレーニングを行っています。以前は都内のパーソナルジムで、最新の設備を使いアスリートのパフォーマンス向上に尽力していましたが、試合で結果を出せない選手を目の当たりにし、心を整えることの重要性に気づきました。感情が整いやすい山の中で、「感情の防災訓練」という独自のメソッドで数々のアスリートを世界一、日本一に導くことができました。現在、競技者や経営者、医師、政治家などに向けて、心を整えるサポートを行っています。これからも山小屋から、世界一や日本一に貢献し、アスリートたちの笑顔を繋げていきたいと考えています。

Hirofumi Furuya

古屋 博史 **スポーツエージェント**

アスリートファーストで築く信頼関係

私は長きにわたりスポーツ選手の代理人およびマネジメント法人を営んでおり、これまで数多くの選手をサポートしてきました。競技の種類を問わず、アスリートファーストを信条に、選手の生活やニーズに寄り添ったサービスを提供し、信頼関係を構築しています。金メダリストやオリンピックのメダリストが多数在籍し、選手の利益と社会貢献に力を入れた企業として活動しています。私の専門はスポーツ心理学で、アスリートがリラックスできる環境を作ること注力しています。アスリートたちが自分の能力を最大限に引き出すためには、精神面のサポートが不可欠です。競技に取り組む選手たちが、心身ともに最高の状態で試合に臨むことができるよう、今後もサポートを続けていきたいと考えています。



【お気に入り製品】

X39、X49、Yエイジ C、Yエイジ G、Yエイジイーオン、サイレントナイト

【Profile】

スポーツチームの指導者
日本のスポーツマネジメント・エージェント業界の草分け的な存在。

Tomonari Ohba

大庭 大業 **治療家 / スポーツトレーナー**

9年間の深い信頼関係が築くサポートの真髄

高校時代、野球のピッチャーをしていた私は肘を故障し、全体の施術を受けました。この経験がきっかけで、支える側になりたいと決意し、スポーツトレーナーの道を歩み始めました。プロ野球選手のトレーナーとしてキャリアをスタート、アスリートや芸能人など、多くの方々の治療とサポートを行ってきました。2012年からは元横綱の専属トレーナーとなり、最初の九州場所で4場所ぶりの優勝を果たしました。その後の9年間、信頼関係を築きながら共に歩み、23回の優勝を支えることができました。アスリートごとに異なる身体や鍛え方に合わせた適切なケアやアプローチを考えることはトレーナーにとって重要です。相撲界では特に、食事管理やメンタルケアも含め、トレーナーの役割は多岐にわたります。日々のトレーニングやケアを通じ、またどんな時も寄り添って築いた信頼関係は、私にとって非常に大切です。アスリートは自分の身体の声をよく聞いており、それを肯定しながら能力を引き上げるサポートを行うことが私の手法です。結果が求められる厳しい世界で、元横綱と共に勝利を目指した9年間の経験は、私にとってかけがえのないものとなりました。



【Profile】

治療家、スポーツトレーナー、柔道整復師、鍼灸師
第69代元横綱白鵬専属トレーナー（2012年11月～2021年9月）
スポーツトレーナー歴は20年を超え、プロゴルファー、プロ野球選手、格闘家など様々なトップアスリートのサポート実績を持つ。
東京と北九州で治療院を運営
著書：白鵬の脳内理論 9年密着のトレーナーが明かす「超一流の流儀」
DVD：深層筋の癒着を剥がす 大庭流 整筋正体法～肩こり・腰痛改善の盲点～

【お気に入り製品】 X39、エナハンサ、Yエイジイーオン

Toshihiko Koga

古賀 稔彦

柔道家



柔道を通じて育む心と身体 ～ Tribute ～

2000年、32歳で現役を引退したとき、柔道とどのように関わっていくかを真剣に考えました。柔道衣を着て畳の上で最後を迎えられたらとの思いが芽生え、自宅に柔道場を作ることを決意しました。それが私の柔道場をつくるスタートラインでした。

これまでの柔道人生を振り返ると、良いことも悪いこともありましたが、特に良かったことに焦点を当てると、たくさんの素晴らしい経験が思い浮かびます。柔道を通して得た学びや人間関係、師弟関係、そして支えてくれた周りの方々への感謝の気持ちが膨らみました。この思いを多くの人と共有したいと思い、柔道を気軽に楽しめる町道場「古賀塾」を開塾しました。

教えに「精力善用、自他共栄」という言葉があり、これは柔道を通じて社会のため人のために役に立てる人になりなさいという教えです。柔道を教える立場として、柔道を学びに来られた方々に対して、社会や人の役に立てる考え方や行動ができる、そういう人間育成ができる「教育柔道」に取り組んでいます。

2020年9月30日
古賀塾でのインタビューにて

【お気に入り製品】

X39、エナハンサ、Yエイジ G、Yエイジ C、Yエイジ イーオン、アイスウェーブ、サイレントナイト、SP6 コンプリート

【Profile】

- 【1987年～1992年】
 - ・全日本選抜体重別選手権 71kg級（優勝）
- 【1988年～1992年】
 - ・全日本体重別講道館杯 71kg級（優勝）
- 【1992年】
 - ・バルセロナオリンピック 71kg級（金メダル）
- 【1996年】
 - ・アトランタオリンピック 78kg級（銀メダル）

この記事は「平成の三四郎」と呼ばれ、世界中に感動を与えた金メダリストであり偉大なる柔道家 古賀 稔彦氏（享年 53 歳）にご生前インタビューしたものです。古賀稔彦氏の柔道そして古賀塾への想いを本誌にて紹介させていただきます。古賀 稔彦氏はライフウェーブパッチをととても気に入っていただき、亡くなるまで愛用していただきました。

